

消化管悪性腫瘍の診断と治療戦略:化学療法と分子標的治療の進歩

司会 熊本大学大学院医学薬学研究部消化器外科学
東北大学加齢医学研究所癌化学療法研究分野

馬場 秀夫
石岡 千加史

進行再発消化器癌に対する治療法には長足の進歩がみられる。新規抗がん剤と分子標的治療薬の登場に伴い、著明な生存期間の延長が見られるようになった。切除不能転移再発症例に対しても、化学療法の導入後抗腫瘍効果が認められれば、治癒切除が可能となることもある。このように化学療法の進歩は進行再発消化管癌に対する新たな治療戦略の再考・構築を要する時代に突入した。本シンポジウムでは消化管癌に対する化学療法・分子標的治療の進歩に関し、現状と将来展望につき討論していただく。